181

ID-Gelstation と IH-500 の比較

◎家原 和章[1)]、澤田 彩香[1)]、吉村 公利[1)]、中村 愛望[1)]、森川 潤也[1)]
社会福祉法人恩賜財団済生会 大阪府済生会野江病院[1)]

【はじめに】当院では平成 13 年 3 月からバイオラッド社全自動輸血検査機器 ID-Gelstation で検査を行ってきたが、平成 30 年 3 月に同社後継機である IH-500 へ更新となった。今回、機器の特徴を把握するため、ID-Gelstation と IH-500 の基本性能を比較したので報告する。

【当院輸血検査の実態】輸血検査では主に平成 17 年 3 月導入時より全自動輸血検査機器を使用しており、日勤帯は輸血担当技師 2 名、当直帯は当直技師 1 名で検査を実施している。

【比較内容】1）血球試薬の使用量・安定性、2）処理能力・機器の操作性、3）結果の判定、4）機器のメンテナンスについて比較。さらに、5）全技師を対称に IH-500 への意識調査を兼ねたアンケートを実施した。

【結果】ID-Gelstation に比べ IH-500 では、1）サンプリング量が改善され、血球試薬使用量が大幅に減少した。また、試薬庫冷蔵機能により血球試薬の安定性が向上し、連続 7 日間の架設が可能になった。2）最大血球試薬搭載数が増加し、不規則抗体スクリーニングと抗体同定の同時測定が可能となった。さらに、基本的な操作は予め機器にカードを架設しておき、検体をセットするだけで測定が可能となったため、操作性が大幅に向上した。3）カメラの感度が改善され陽性検出率は向上したが、判定保留や偽陽性が多くなった。4）機器メンテナンスが週 1 回のみになり、操作方法などがモニター上に表示されるため操作が容易になった。5）技師へのアンケートの結果、操作性の簡便化、測定時間の短縮などの理由から ID-Gelstation から IH-500 へ更新して良かったとの意見が多数見られた。

【まとめ】IH-500 への更新により試薬やカードの選択・架設の手間が省略され、技師の負担が大きく軽減された。また、操作性の簡略化や試薬・カード架設数の増加により結果報告時間が短縮され、緊急時にも迅速に対応できるようになった。しかし、判定保留や偽陽性への対応は輸血経験の少ない技師では困難である場合もあるため、さらなる教育・対策が必要である。

大阪府済生会野江病院　06-6932-8600